



Photo:山下亮一

SHIRO KURAMATA GALLERY

SEMPRE

'23 11.18 sat

'24 1.28 sun

MoMA Design Store
表参道

'24 2.1 thu

'24 3.7 thu

designshop

'24 3.9 sat

'24 4.8 mon

日祝休(土曜・最終日:17:00まで)



倉俣の家具には、「重力からの解放」と呼ばれる軽やかさや儚さと「独創的な素材使い」に大きな特徴がある。代表作のひとつである「ガラスの椅子」(1976年)は、新開発のボンドを使って厚い板ガラスを接着しただけのもの。人が座れば割れてしまいそうだが、実は大人が座ることも可能。見る者の心に働きかける力を持った、アートに近い非常に美しい一脚である。倉俣にとって、「美しさは機能」のひとつなのだ。

「How High the Moon」(1986年)は、工業用の素材であるエキスパンド・メタルを溶接してつなぎ合わせたもの。フォルムは誰もが思い描く伝統的なソファーだが、これまで家具に使われることのない素材を用いているのが倉俣流。

透明なアクリルの中に造花のバラが浮かんだ「Miss Blanche」(1988年)は、鑑賞のための椅子と言って言い過ぎではないだろう。重力からの解放、独特の素材使いといった倉俣の特徴を備えており、「How High the Moon」とならんで倉俣の代表作のひとつとなっている。

倉俣のデザインを実現させるには高度な職人技術が必要だが、職人の手の跡を見せないように仕上げられているため大量生産は難しい。唯一の例外が「オバQ」の愛称で呼ばれている「K-series」(1972年)。この照明ですら、手作業による造形が不可欠である。復刻された「SAMBA-M」(1988年)のようなオブジェは、小さなサイズゆえ独自の世界を実現でき、隠れた名品が多い。



Shiro Kuramata Project

1960年代半ばから1991年まで、空間と家具デザインを中心に世界的な活躍を博した倉俣史朗(1934-91)。手がけた空間の大半は店舗であるため、現存するものはごく僅か。一方、オブジェ的な色彩の強い家具や小物も多くデザインされ、現在では世界の主要な美術館のコレクションに。クラマタデザイン事務所監修のもと、ギャラリー田村ジョー※によって一部復刻が行われている。

「ハウ・ハイ・ザ・ムーン」は、建築素材であるエキスパンド・メタルで構成された輪郭がそのまま構造となった、倉俣史朗の代表作であり、デザイン史の中でも重要な一脚。フォルムは伝統的なアームチェアだが、それまで家具に使われることのなかった素材を用いることで、倉俣らしい「軽やかさ」や「儚さ」が表現されている。美術品のような雰囲気でありながら、椅子として「座る」機能が確保されているのは倉俣が意図したところ。

クラマタデザイン事務所監修のもと、オリジナルの図面を元に改良も加味し、ギャラリー田村ジョー※の手で復刻。失われつつある日本の金属加工の技術を使って、「ハウ・ハイ・ザ・ムーン」は蘇った。



How High the Moon



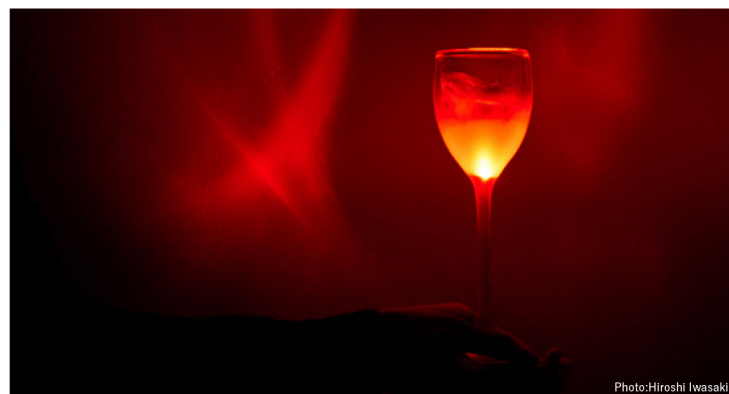
Sing Sing Sing



Apple Honey



Hydrogen Dream



SAMBA-M

※ギャラリー田村ジョー

田村昌紀(センプレデザイン会長)とジョースズキ(デザインプロデューサー・文筆家)によって企画・運営されるポップ・アップのデザイン・ギャラリー(ユニット)。機能的な家具とアートの間に位置する、日本ではまだ新しいジャンルの「コンテンポラリーデザイン」にフォーカス。



MoMA Design Store
オンラインサイトは
こちらから



Shiro Kuramata Project
ギャラリー田村ジョー /
Gallery Tamura Joe
Supported by Sempre Design